

令和7年9月 白石市教育委員会定例会 会議録

- 1 招集日時 令和7年8月28日(木) 午前10時00分
- 2 招集場所 白石市防災センター2階会議室
- 3 出席者 半沢教育長、小室委員、鈴木委員、大橋委員、志村委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明のため出席した者
教 育 部 山田教育部長
学 校 管 理 課 山田課長、石田教育専門監
澁谷課長補佐兼学校給食センター所長
山田課長補佐
生 涯 学 習 課 佐藤課長
こども未来課 菅野課長
図 書 館 半澤館長
- 6 本委員会の書記は、次のとおりである。
山田学校管理課長補佐
- 7 開 会 午前10時00分
- 8 議事日程
 - ・第28号議案 令和7年度白石市一般会計補正予算(9月)の申し入れについて(案)
 - ・第29号議案 白石市旧学校利用施設条例の一部を改正する条例に関する意見について(案)
 - ・第30号議案 白石市教育委員会に属する県費負担教職員の部分休業に関する規則の一部を改正する規則について(案)
 - ・第31号議案 教育委員会感謝状の贈呈について(案)
 - ・第32号議案 令和7年度白石市青少年相談センター後期相談員の任命について(案)

9 前回会議録の承認について

教育長：（委員全員に諮って）承認する。

10 教育委員会会議録署名委員の指名について

教育長：志村委員及び小室委員を指名する。

11 教育長報告事項

(1) 一般事務報告

- 1) 令和7年度姉妹都市交流事業「ふるさと豆記者交流」登別市・海老名市訪問団来白（8/5～8/6）（学校管理課長）
- 2) 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価（外部評価会）（8/22）（学校管理課長）

教育長：（委員全員に諮って）承認する。

(2) 専決事務報告

- 1) 白石市教育委員会後援・共催名義に関する事務取扱要領の制定について（学校管理課長）
- 2) 人事案件（学校管理課長）

教育長：（委員全員に諮って）承認する。

(3) その他

- 1) 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

学校管理課長：教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について、配布させていただいている資料のとおり外部評価者から、評価をいただきました。こちらの評価書については、来る9月市議会定例会において市議会議員に報告するとともに、市ホームページに掲載してまいります。

（質疑等）

小室委員：評価をされた外部評価者の方々は、白石の教育について深く理解しているなと感じました。

教育長：本日、教育委員の皆様へ外部評価内容についてもお認めいただきまし

たので、市議会に報告するとともに、ホームページで公表いたします。

2) 全国学力・学習状況調査について

教 育 専 門 監：今年度の全国学力・学習調査の結果について報告いたします。今年度の結果の示し方については、例年の示し方から変更しております。文部科学省から平均正答数の数値のみにこだわらず分析をしっかり行い、改善策を示すこと。また、調査結果を多面的に解釈できる示し方となるよう統計表、グラフなどを効果的に用いるようにとの通知がありました。

学力・学習状況調査の本来の目的が、求められている学力に向けて授業改善を図ることにあることからこの考え方に基づいてまいりたいと考えております。

当該調査結果は宮城県においても公表されておりますが、これまでの公表の仕方と異なり、箱ひげ図を用いて公表しております。白石市においても宮城県の結果公表の方法と同じように公表していく考えです。

また、問題の分析、今後の対策につきましては、これまでと同様に、しっかりと分析を行った上で公開していく予定です。

今回の調査において、大きく変わった点がありますのでご説明いたします。中学校の理科では、CBT 方式と呼ばれているタブレット、インターネットを活用し問題を配信、解答を行う方式を採用しております。これは、問題を動画や音声を活用し出題するという特徴があります。ただし、解答が終わった後に、手元に問題が残らないということが起こります。そこで、文部科学省、国立教育政策研究所のホームページに問題の一部を公開するという形で問題の周知が行われています。

そして、結果についても IRT (項目反応理論) によって学力を推定し、500 を基準としたスコアで算定されることとなっています。IRT の例示をして視力検査の例示がなされることがあります。今回中学生が解いた問題が全部で 26 問ありますが、その問題に 1 つずつ難易度を設定し、難易度の高い問題に正解することで、スコアが上がり、簡単な問題で不正解となった場合はスコアが下がるということで IRT スコアを算出します。それを 5 段階の IRT バンドと呼ばれるものに集約し、生徒に配布される個人票にはこの IRT バンドで結果が配布されることとなっています。よって、子どもたちは、IRT スコアは分かりませんが、IRT バンドでおおよその水準が示されることとなっています。

これは、個人の順位が特定しにくいという点をねらいとしています。学校においても生徒個々人の IRT スコアは把握できていません。今回

IRT スコアを資料にて示しておりますが、値の最大値と最小値については、最大が 800、最少を 200 に設定しています。これは、宮城県の発表形式を元にしており、最大 800 最少 200 を採用しています。個々人の IRT スコアが把握できない現状においては、市の値も県の形式に準じた形でださせていただいていることをご理解いただきたいと思います。

続きまして、市の結果についてですが、小原中学校で調査を行った生徒がおりませんでしたので、中学校は 4 校で実施しています。

平均正答率は、小学校で各教科とも全国平均を下回りました。中学校は国語と理科で全国平均を超えましたが、数学は全国平均を下回る結果となりました。全国平均を超えた学校を見ていくと小学校の国語では 3 校、算数は 2 校、理科では 3 校でした。

中学校では、国語は 3 校、数学は 1 校、理科は 2 校が全国平均を超えました。また、正答数、IRT スコアの分布は、小学校国語及び理科については、全国平均と比べて、上位層から下位層まで、おおよそ 1 問分下方に分布しています。小学校算数、中学校数学は、上位層が 2 問分、下位層は 1 問分下方に分布しています。小学校の算数においては、中央値も 2 問分下方に分布しています。中学校国語に関しては、全国と同じような分布となっています。中学校の理科は、上位層については全国平均と同程度ですが、下位層の分布が全国よりも高い結果になっています。

また、結果を観点別、問題傾向別に見ていくと、小学校の国語、算数、理科の分布が、知識、技能で平均正答率が下がっているようです。国語に関しては漢字の部分で平均を下回り、図や資料の意図を理解して問題を解く点に課題がありました。算数については方眼図に図形が書いてあり、その中で五角形を選ぶという設問に課題が見られました。理科については、全国的な傾向となったものですが、電気問題に課題が見られましたが、理科については、実験結果を自分の言葉で書く点については、全国平均よりも良い結果となりました。

中学校の観点別、問題傾向別の分析では、国語は知識、思考判断ともに全国平均を上回っており、特に解答時に様々な条件を付して解答する問題は正答率が良いものでした。数学については、知識、技能が良くありませんでしたが、素数や増加量といったワードが入っている問題について正答率が低い傾向が見られました。理科については、全ての問題が、公開されているわけではありませんが、公開されている共通問題について見てみると粒子の問題が正答率が高いものでした。実験の手順や実験の条件について解答する問題についても正答率が高い傾向が見られました。

今後は、結果を分析し公表していきたいと考えておりますが、小・中学校においても基本的には各学校において公表の是非を判断することとなりますが、市の教育委員会としては2点を中心に指導していきたいと考えています。

1点目は、国や県の発表を参考にするとともにしっかりと多面的に分析をし、対策を立てた上で公表していくといった点です。2点目は、個人の特定につながるような公表の仕方はしないという点です。以上、2点を各小・中学校に指導してまいります。

教 育 長 : 本日、お示ししたのは速報値です。過日、全国知事会から文部科学省に結果の公表について、工夫、改善について強く要望があったことが報道されているところです。文部科学省も今回の調査結果から公表の仕方を大きく変えてきています。その趣旨は、記憶に新しいところでは、2000年代に学力低下論争というものが世間を騒がせ、現場が大きく混乱したというものがありました。それと同じ轍を踏まないためには、平均正答率に過分に目がいくような公表の仕方をしないということです。現場に混乱をもたらさないとともに、子どもたちの学習に役立つような授業改善に資するという観点がこれまでよりも強く打ち出されたということです。

なお、箱ひげ図については、一般になじみがないものであります。あくまで本日は速報値ということです。

現在、教育委員会では、現場の教員の力も借りながら今後の指導に役立つという観点から多面的に分析を進めているところです。

平均正答率にのみ注目がいかないようにするという趣旨はそのとおりであると考えますが、本市の場合、小学校に課題が多いということは読み取る必要があると思います。着目すべきは、子どもたちに学校生活の満足度を聞いている中で、通常、学年が上がると様々な悩み等が出てきますので満足度は低くなる傾向にあります。しかしながら、本市の場合、中学校よりも小学校が低い点です。この点をしっかりと現場が受け止め、学校生活が楽しいと思える児童を増やしていくことが、学力等にも関係してくることなのではないかと考えています。学校が楽しいということは、勉強が楽しい、自分のやりたいことができるということにつながりますので、小学校の現場ではこの点を今一度見直していく必要があるのではないかと考えています。学校によってバラツキがある現状を各学校において分析する必要がある、今、まさに、個別最適な指導を行っていく必要があると感じています。

現在、調査結果については分析中ですが、市民や保護者、教育現場にとって分析の結果が役に立つという点に配慮した公表の仕方を検討しなければならないと思っています。

(質疑等)

小 室 委 員 : 感想としては、小学校はあまり良くなく、中学校は全国平均と同水準もしくは上だなという感想です。この状況については、学校生活の満足度の話がありましたが、満足度が高い中学校では落ち着いて授業が進められ、成績が良いのではないかと感じます。

一般に公開する際には、家庭での教育のためにも落ちついて授業に取り組むことは、成績向上にもつながるという点を是非入れて欲しいと思います。

教 育 長 : 調査結果の数字は動かしようがない事実です。中学校より小学校に課題があることは一目瞭然です。これは何年も変わらない傾向で、小学校で課題があり、中学校で改善がされています。本市の中学校の教員は小学校で課題があったとしても実力を伸ばすことができるということで、中学校の教員は非常に頑張っていると言えます。この点については、評価してよい点であると思います。

今回の調査で明確になった事実があります。主体的、対話的で深い学びというのは今回の学習指導要領の趣旨ですが、このような学習を行っているところの子どもの学力は高いということが分かっています。これから推察すれば、本市の子どもたちは、主体的、対話的で深い学びという点が弱いと思われます。また、読書量との関係もあります。これも今回はっきり打ち出されました。読書をする子どもが多いところは、学力が高い傾向にあります。読書は極めて重要なことが分かっています。以前は、朝読書の時間を設けていましたが、現在は、実施していない学校もあります。低学年のうちから読書に親しむこと、また、体験的な学びを重視しているところの学力は高くなっています。この点を学校経営に生かしていくような分析をしていかなければならないと考えています。

さらに学力が高い学校の特徴には ICT の活用率が高いという点があります。ICT がだめだという教育関係者の方もおります。しかしながら、国も本市もそれぞれの利点を活用しながら授業を進めていく選択を行っています。全国学力・学習状況調査においても ICT の活用を前提とした問題が出題されています。教員の働き方改革の観点からも ICT を上手に活用していくことが重要であると考えています。根本的なことを現場

の教員にも分かっていただいた上で、この問題に取り組んでいきます。

小 室 委 員：分析結果については、市としての対策等を加え各学校に伝達することになると思いますが、その際に読書量が多いところ、ICT の利用率が高いところ、体験的な学びを実践しているところは学力が高い傾向にあるなど、具体的な指導に結び付くような指導、公表をお願いします。

教 育 長：付け加えて、家庭の学習時間が多い子どもは学力が高い傾向にありますが本市では残念ながら相当少ない状況にあります。逆に子どもたちのメディアに触れる時間は従前から多い傾向にあります。学力向上の取組においては、家庭でのメディアコントロールも含めて、当然、協力をいただかなければなりません。調査結果の公表については、家庭で気を付けるべき点も分かるようにしていくことも重要だと考えています。

大 橋 委 員：中学校生活が充実しているのは、教員から学校生活において大人としての責任を与えられていると感じられるからなのではないかと思っています。ルールが決まっている中学校においてできることなのかもしれませんが、小学校においても子どもとして見るだけではなく中学校のような体制を取り入れられないかと感じます。

鈴 木 委 員：メディアコントロールは重要であると思います。パソコンや AI というのは避けて通れない時代になっています。子どもたちにリスクも含めた正しい使い方、活用の仕方をもっと指導していただければと思います。

志 村 委 員：小学校の教員はやらなければならないことが多いと思います。そのような中で児童一人ひとりを指導していかなければならないので、特に若い教員は大変だと思います。中学校になれば、子どもたちも少し大人になり、落ち着いて授業が出来るようになるというのが流れだと理解しています。そのような中、チーム担任制というのが鍵になってくるのではと思います。授業だけではなく、児童の一人ひとりの生活態度などにも指導ができれば、もっと授業がやり易くなるのかなと感じました。授業の質が上がれば、学習意欲の向上や深い理解につながると思います。

ICT を含めて、新しいことにチャレンジすることは大変だと思いますが、ICT 教育も含めて教員にも頑張っていただきたいと思います。チーム担任制を活用し授業がやり易くなればいいなと感じました。

教 育 長 : 皆様から発言をいただきありがとうございます。子どもの扱いについての発言をいただきましたが、先日、きぼう学園の卒業生と対話をしました。きぼう学園の子どもたちは学校に対しての満足度が非常に高いです。何故かなと考えてみると、きぼう学園は子どもたちの声を日常的に学校経営に生かしているんです。つまり、子どもとの対話がフラットな関係で成り立っているということです。校長会などでもお話をさせていただいておりますが、とりわけ小学校は子どもの声にもっと耳を傾けて欲しいと思っています。もっと子どもたちの声を聞く努力をしないといけないと感じています。また、チーム担任制は、導入することが目的ではありません。上手く機能すれば改善される点があるとは思いますが、導入したから学力を含めた改善がなされる訳ではありません。このあたりを注意しながら進めてまいりたいと考えております。

3) その他（文部科学省からの派遣受入れについて）

学校管理課長 : 文部科学省から本市教育委員会に令和7年度文部科学省職員地方教育行政事務研修の研修受入れの打診がありました。9月29日から10月17日の日程で文部科学省職員1名を受入れすることとなりましたので報告いたします。この研修の受入れは今年度で4年目となります。研修期間中は教育委員会定例会への出席や各学校を始め教育関係機関の見学を行う予定としています。

12 議 事

- ・ 第28号議案 令和7年度白石市一般会計補正予算（9月）の申し入れについて（案）
（ 質疑等 ） : （質疑なし）

教 育 長 : 第28号議案について
（委員全員に諮って）承認する。

- ・ 第29号議案 白石市旧学校利用施設条例の一部を改正する条例に関する意見について
（案）
（ 質疑等 ） : （質疑なし）

教 育 長 : 第29号議案について
（委員全員に諮って）承認する。

- ・第30号議案 白石市教育委員会に属する県費負担教職員の部分休業に関する規則の一部を改正する規則について（案）

（ 質疑等 ）：（質疑なし）

教 育 長 ：第30号議案について
（委員全員に諮って）承認する。

- ・第31号議案 教育委員会感謝状の贈呈について（案）
- （ 質疑等 ）：（質疑なし）

教 育 長 ：第31号議案について
（委員全員に諮って）承認する。

- ・第32号議案 令和7年度白石市青少年相談センター後期相談員の任命について（案）

教 育 長 ：第32号議案について、白石市教育委員会会議規則第5条第1項ただし書きに基づき、人事案件について秘密会での審議を提案させていただきます。

（委員全員に諮って）全員一致で承認。

※秘密会のため非公開

13 その他

学校管理課長：次回定例会は、10月3日（金）に白石市防災センター2階会議室で開催する予定です。同日、東中学校の施設訪問も予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

以上

14 閉 会 午前11時22分 終了

15 本委員会の議決の結果は、次のとおりである。

- ・第28号議案 令和7年度白石市一般会計補正予算（9月）（原案可決）
- ・第29号議案 白石市旧学校利用施設条例の一部を改正する条例に関する意見について（案）（原案可決）

- ・ 第 3 0 号議案 白石市教育委員会に属する県費負担教職員の部分休業に関する規則の一部を改正する規則について（案）（原案可決）
- ・ 第 3 1 号議案 教育委員会感謝状の贈呈について（案）
- ・ 第 3 2 号議案 令和 7 年度白石市青少年相談センター後期相談員の任命について（案）（原案可決）

令和 7 年 8 月 2 8 日

署名委員 志村 洋一

署名委員 小室 秀一